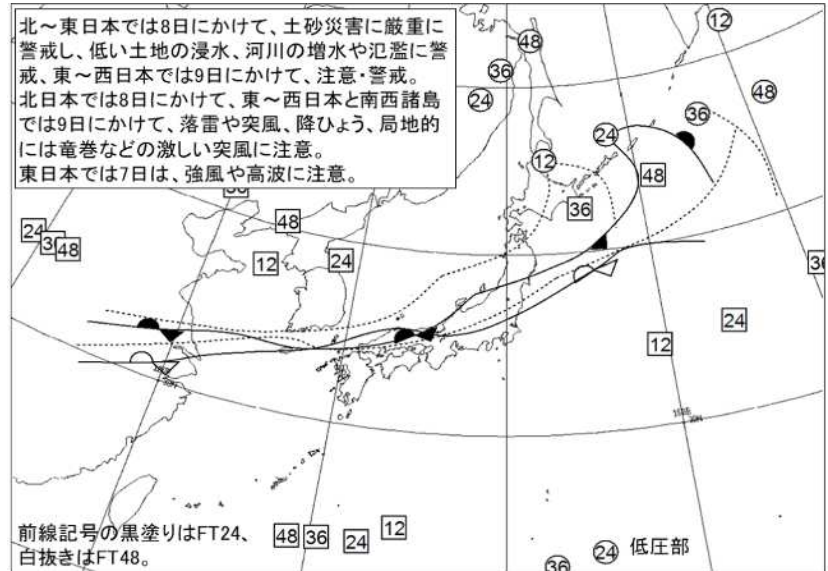


1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が日本海北部を東北東進し、温暖前線が北海道地方にのび、寒冷前線が日本海～朝鮮半島へのびている。前線や低気圧の影響で北～西日本で激しい雨を解析。寒冷前線南側の北日本～朝鮮半島付近と西日本で雷を検知。気圧の傾きが大きく、強い風が吹き、波が高い所がある。
- ② 500hPa 5760～5880mのリッジに対応する高気圧が関東の東を東へ移動し、500hPa 5940m付近の高気圧に対応する地上の高気圧が日本の南をゆっくり西へ移動。東日本～南西諸島は、これらの高気圧圏内で晴れて気温が上昇し、猛暑日となっている所があり、西日本では大気の状態が不安定となって強い雨を解析、雷を検知。



主要じょう乱解説図

- ③ 南西諸島では、日本の南の高気圧縁辺の下層暖湿気の影響で、激しい雨を解析。雷を検知。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 7日は、1項①の低気圧が宗谷海峡付近を通ってオホーツク海に進み、前線が北日本や日本海を南下する。8日は、前線が東日本や西日本日本海側まで南下して、9日にかけてほとんど停滞する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と日中の昇温の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。北～東日本では8日にかけて、土砂災害に嚴重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、東～西日本では9日にかけて注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線近傍では強い風が吹き、波が高くなる所がある。東日本では7日は、強風や高波に注意。北陸地方では、7日夜のはじめ頃から8日明け方にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。
- ② 1項②の関東の東の高気圧は8日夜にかけて日本のはるか東に移動し、日本の南の高気圧は9日夜にかけて沖縄の南に移動する。また、朝鮮半島付近の高気圧は、8日夜には千島近海に中心を移し、9日にかけて日本のはるか東に移動する。1項①の降水の影響が小さい地域では、これらの高気圧に覆われて晴れて気温が上昇し、北日本では7日は、西～東日本では9日にかけて、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ③ 南西諸島では、2項②の日本の南から沖縄の南に移動する高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。9日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：北陸150、東北・九州北部120、中国100mm。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。全国的に注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を7日17時頃に発表予定。